

2010 年度 ミーティング総括

筑波大学 体育会ワンダーフォーゲルクラブ

2010 年度 ワンダーフォーゲルクラブ構成員（途中退会者含む）

主将 福島

主務 佐藤

会計 吉田

1 年生	2 年生	3 年生	4 年生(OB)
赤星	飯田	市川	奥村
伊藤	稲葉	佐藤	岩見
瀬戸	春名		北村
高木	福島		長谷川
福住	三浦		原田
古木	森本		
宮崎	森山		
百瀬	吉田		
	若林		

[良かった点]

- ・2月に実施されたまとめテストにより、知識の整理ができました。
特に実戦での搬送・ロープワークテストはとても有意義でした。
- ・勉強会の担当をすることで山への興味が大きくなりました。
1年生が九月の時期から勉強会を担当できて良かったです。上級生による勉強会のフォローもとても心強かったです。
- ・勉強会改善案が出されたりするなどミーティングの質を上げていこうとするメンバーの強い情熱1年間を通して継続されていました。

[悪かった点・改善点]

- ・大学で登山を始めた自分にはわからない登山用語が勉強会で使われていると感じることがありました。 ex) ハーケン、ビバーク等
そのため、来年度の勉強会では登山を大学で始める人のために簡単な登山用語集を作れるといいなと感じました。
- ・医療講習会に参加できなかったためということもありますが、自分自身1年間を通して医療の実践面での力不足を感じています。
医療講習会に参加できなかった人たちは参加した人に当日のお話を聞いたり、当日の作業を実践するなどの努力が足りませんでした。
来年度は参加できなかった人たちのための独自の講習会を開くなどの対策が必要だと感じました。
- ・天気図のスキルがまだ不足しているので上級生を講師にお呼びして、1年生で天気図講習会を開くべきでした。新2年生は新生に交じって天気図の力を今後磨いていく必要があると感じます。

伊藤

こんにちは。ワンダーフォーゲル部一年、伊藤晃です。
今回は『総括』、ということで自分のこれまでのワンダーフォーゲルにおける活動をブッチャケで総括してみたいと思います。笑

遡れば、僕がこのワンダーフォーゲルクラブにお邪魔させていただいたのは 9 月頃でした。

入学当初、実は僕は同じ体育会の弓道部に所属していました。己の鍛錬のため、と思い入部し、日々練習漬けの毎日でしたが、やはり流石筑波大学の体育会とあって、やはり『勉強との両立』という壁に当たってしまいました。そのどちらかを天秤にかけたとき、やはり辞めざるを得なくなってしまったのです。そんなときにふとこのワンダーフォーゲルを見つけたのです。実は、僕の父親も大学時代は山岳部に所属していて、その遺伝子を受け継いだせいもあってか、ふと目に留まりました。また僕自身、ひとつのところに留まってるのがイヤで、ワチャワチャと国内だろうが海外だろうがいろんなモノを見て、経験したいというタイプだったので、興味をもったわけです。いろいろ経験を積んだ男って、魅力的でしょ??笑

というわけで、入部することになったわけです。

入部したときはもうシーズンの終盤だったので、あまり山に行けなかったのも、来シーズンからはレベルを上げていきたいと思います。そして海外進出します。笑

最後に、反省点というか、一年生の皆!!!来シーズンはもっと盛り上げていきましょう!!!笑

あと、先輩方へお願いです。

一年のポテンシャルを引き出していきたい!!!笑

みんな‘持って’ますよ!!!

伊藤もまだまだこんなもんじゃないですよ!!!マジで。

1. ミーティング1年間を通して

ワンダーフォーゲルクラブに入部してほぼ一通りの行事が終わった。ミーティングは、山行の提案、山行報告と勉強会を中核とした、1週間に唯一全員が会する場だが、非常にコンパクトかつ質の高い会になっていると入部しばらくしてから感じるようになった。特に勉強会では短い時間・限られた場所ながら、座学に止まらない指導が行われており、さらに今後も活発な会となることを期待したい。

本ミーティング総括では、少しばかり気になった3つの事項の改善を提案したい。

2. 改善点

2.1. 報告

山行中に撮影した写真をPCで見せながら、山行の様子を解説している「報告」。実際に行った当事者ならともかく、その他のメンバーには写真と口頭の説明だけでは、山行のイメージはわきにくい。その一つの要因は、登山ルートや時間などの基本的な情報が他のメンバーには無いことが挙げられる。対応として、報告の前に、全員に山行計画書を配布することが望ましいが、予算や手間を考慮すると、報告担当者が写真を見せる前に同じPC上で山行計画書を示し解説する方法はどうだろうか。

2.2. 勉強会

勉強会中、配布資料の穴埋めなどをメンバーさせる方法は、「全員で行う学習」という枠組みで非常に大きな役割を持っている。しかし、その穴埋めがあまりに単純すぎたり、あまりに多くの解答が考えられたりする場合、メンバーを当てて穴埋めさせることは、ときには一つの欄に数分かかり時間の無駄だ。担当者は、資料作成の際に余分な空欄の配置を避けたり、選択肢を与えたり、または、勉強会中に明瞭なヒントを与えたりして、無駄な時間を省きたい。

2.3. 欠席者への対応

週に1回のミーティングにもかかわらず、毎回欠席者が数名おり、もったいないところだが、問題は欠席者へのミーティング内容の伝達が確実に行えているかという点にある。

特に勉強会は、翌週の復習の際に前回の欠席者が参加できないということもある。理想は各欠席者が個別に担当者へ連絡をとり資料等に目を通すことだが、現実的には勉強会終了後に各担当者が資料の余分を部室に明確に置いておくことで解決できる。

また、係からの連絡など重要事項の伝達方法も考える必要がありそうだ。

宮崎

勉強会では、登山の知識で重要な点を学べるのはとてもいい機会だったと思います。特に気象については何回もテーマとなっていて重点的に学べたのは良かったと思いました。さらに自主的に岳人やヤマケイなど雑誌を読んでいけば山についての知識は相当身につくと思いました。

山岳団体は、活動場所が山であり、全員で集まれる機会はあまりないので、下界で一堂に集まり、情報を共有できる点でミーティングは重要だと思います。写真を見せながらの山行報告は非常にイメージがしやすく、勉強会の資料もとてもわかりやすいと思いました。資料は今後も参考にしていきたいと思いました。意見を言いやすい雰囲気だったことも良かったと思います。

自分は出席率が悪くこんなことを言うのも気が引けますがあえて改善点を挙げれば、勉強会が終わった後が時々長かったことでしょうか。必要以上に長引かせることはないと思いますし、ミーティングを終わらせた後で話したらいいのと思ったことはありました。

ありがとうございました。

百瀬

今年度のミーティングについて振り返ってみる。まず勉強会についてだが、大学からワングルを始めた自分にとっては、山を登るために必要な知識やスキルを得ることができて非常に有意義な時間であった。特に気象関係の内容は回数も多く、その分理解が深まったように思う。また、自分も遭難事例と山域研究の授業を担当した。人前で分かり易く説明するというのはやはり難しく、退屈な授業になってしまったように思う。反省点としては、レジュメに頼りすぎ文章を読むだけになったり、言葉が早口になったりしたところだ。飯田先輩から勉強会の改善案が出されたように、このような授業であるならばテスト形式の方がいいだろう。ただ、私は今の授業形式の方が勉強会の理念に合うと思うの

で、来年度はこの点を改善し、借り物でない自分の言葉で説明できるようにしたい。

ミーティング全体に関して自分が思ったのは、ありきたりなことだが、出席することが大切ということだ。主将の言葉でもあったが、このクラブでは、トレーニングを除けば、ミーティングが唯一の顔を合わす機会であり、クラブ員としての唯一の繋がりである。この繋がりが無ければ、クラブ員といっても、名義だけになってしまう。筑波大学体育会ワンダーフォーゲルクラブ規約第6条1にあるように、ミーティングは、当クラブの最高意思決定機関であり、自分たちはその構成員であることを忘れてはいけないと思う。

飯田

反省

3学期に入ってから遅刻や欠席の回数が多くなってしまった。また、夏の作文の改訂版を出すのがあまりにも遅くなってしまったなど、ワンゲルの活動がやや疎かになってしまった事は否めない。4月からはこのような事がないようにしようと思う。

今年の山行

今年度はサークル全体での山行と沢研の山行以外はサークル内で山に行くことはなかったが、登山研修にも行ったし、なんだかんだ山には結構行ってたなー、と思った。というか沢研の活動が精いっぱい、シーズン中は他の山行に行く余裕はあまりなかった。

来年度の活動について

文芸の仕事は早め早めに準備をして仕事をしていこうと思う。あと、「とりあえず締め切りはここにしておくけど、まあ遅れてもいいよ」みたいな空気をできればなくしたい。グレーゾーンってややこしいんで(笑)

山行に行く回数は今までよりも少なくなってしまうと思うが、行く山行の一つ一つを楽しめたらいいなと思う。

勉強会について

あまり今までの形式にこだわらず、自分が教えやすいような勉強会ができればいいと思う。個人的には福住のやり方がいいと思う。個人的感想だが、文字を読むだけなら担当の人が読み上げなくても、自分で読んだ方が理解が速い。補

足説明は後でまとめてしてもらえばいい。問題形式で要点をまとめてあるし、わかりやすかったと思う。

最後に

なんかミーティングの空気が暗い。他のサークルと比べても。内容はともかくとして、なんとなく暗い。一番最初に新歓に来た一年生にいい印象を持ってもらえないと思う。まあ新歓頑張らしようって事です。

2年 稲葉

■よくなかったこと（全体）

- ・医療講習会の無断欠席

■よくなかったこと（稲葉個人）

- ・提案を出せなかったこと

■よかったこと（全体）

- ・3学期も低山を提案してくれる人がいたこと
- ・勉強会についての意見がでたこと
- ・無断遅刻・欠席について注意ができていたこと

■よかったこと（稲葉個人）

- ・楽しかったこと

春名

・遅刻欠席について

自由度の高いサークルだけど、せめて週1だし原則全員参加にしておきたい。無断は論外ではないかと。あとからでも一言…(信用問題かなと)それぞれ重きを置く場所は違うと思いますが、それなりに尊重し合えたらいいと思います。

・勉強会内容

前年度からだいぶ改良して(実技や復習の導入など)、けっこううまくいったんじゃないかと。(あとは谷川岳遭難の勉強会を忘れず入れれば。。)

一サークルの小さなことかもしれないけど、参考引用したものは載せたほうが。あとから本やネットで興味を持った人が見れるし、モラルとして。担当は1学期に1度くらいだし、この機会を大切にできたらいいと思う。あと、部室用の資料や休んだ人用の資料をきちんと確保。

- ・ 来年度以降について

今の1年生が最初どう感じたか知りたい。(それを踏まえてよりよく…)

やっぱめりはり大事？

言葉で伝えるのは限界あるし、自分らがきちんとやれば伝わると思うのでまじめに頑張ります。(がんばりましょう)

福島

- ・ 遅刻、欠席

今年度のミーティングで気になったのは遅刻、欠席の多さ。事前に連絡があるならまだしも、無断で欠席のものも多くあった。欠席するなら一報入れるべきだし、それは常識だと思う。また理由の無い遅刻、欠席もあったがそもそもワングルのミーティングは現役部員全員参加が原則である。理由はプライベートなこともあるだろうから、僕としてもそこまで詮索するつもりは無い。だけど「ワングルの部員としての義務」よりそちらを優先しているということは自覚してほしい。(ちょっと重い言い方だけど)

- ・ ミーティングの雰囲気

主将というミーティングをまとめる立場として、「ミーティングの雰囲気をどうすべきなのか」というのが分からなかった。僕としては、今年度は去年の雰囲気しか見ていない2年生が主体となってミーティングを進めていたので、どうしても「去年はどうだった、ああだった」と去年の雰囲気と比べてしまった。「もうちょっとピリッとしたほうがいいのか」と感じるものがあつた。

皆さんは今年度のミーティングの雰囲気、どう感じたのだろうか。そもそも部員それぞれのミーティングの雰囲気に対する認識というのはどういうもので、それらは一致しているのだろうか。今年度入部してきた1年生はミーティングの雰囲気をどう感じたのか。聞いてみたい。

- ・ 勉強会

今年度の特に後半、資料を読み上げるだけというのがいくつか見受けられたし、その資料も所在が怪しいものがあつた。嫌々勉強会をやるのではなくて一種の「プレゼン」とし

てやると、自分の糧になると思う。(もう個人の考えだが)

今年度から取り入れた前回の勉強会の復習はよかったと思う。ただ、前回の勉強会担当者が次回のミーティングにいなかったり、勉強会の復習が必要ないものがあったりして実際に勉強会の復習が出来たのは少なかった。担当者の欠席は何らかの方法で防げらると思う。

・ 山行の提案

2 年生主体ということで不安が多かったが、年間を通じて多くの山行が提案された。ただ 1 年生の提案が少ないのは気がかり。(といっても提案しろ！と圧力をかけているわけではありませんが)1 年生は来年度新入生を連れて行く立場になり、(今年度僕達がそうだったように)1 年生が主体で夏に山行を提案していく。その時に出るかどうかが少し心配。(といいつつも僕も去年の長期まで全体山行しか C.L.をしていませんでしたが)

要するに、現 1 年生は来年度は少し立場が変わって、新入生を連れて行く責任と義務が多少なりともあるよということ。

2 年 三浦

○代替わりの時期

- ・ 代替わりの時期を統一しよう
- ・ 役職が替わる時期を明確化しよう

現在、運営委員と主務、(会計)は 1 月に代替わりされています。が、他の役職はいつ代替わりになるのかというのが明確化されていません。そこで、ワングルとしての代替わりの時期をしっかりと定めて、その時期に引き継ぎなどをしていくべきだと思います！(もちろんその時期だけ引き継ぎをすればいいという話ではなくて。)

・ 代替わり考え付く 3 パターン

- ①11 月役職決め→12 月移行期間→1 月代替わり(これにしたい！)
- ②11 月役職決め→12～3 月移行期間→4 月代替わり(現在??)
- ③2 月役職決め→3 月移行期間→4 月代替わり(主務と運営委員の代替わりを遅くすることも可能)

○欠席

今年は欠席が多いように感じました。やむを得ない事情があるのであれば欠席すること自体は仕方ないと思います。ですが、無断欠席と理由なし欠席は本当にダメだと思います。

- ・無断欠席

これをする人は世の中の常識的に考えてどうかしているのではないかと思います。こんなの論外なので、ちゃんと連絡しましょう。

- ・理由なし欠席

連絡はしたけど、どのような理由で欠席したのかを言わない人もいたようです。言いたくない事情なのか、メールを打つのがめんどくさかったのか、ただ言い忘れたのか、わかりませんが、理由はちゃんと言うようにしましょう。理由を言わずに休むだなんてサボりとほぼ同じです。

個人的な反省は、ミーティング中にチャチャを入れすぎました。ごめんなさい。楽しい雰囲気づくりを目指していたのですが、ダメでした。

以下に関してはもうミーティング総括から完全に脱線します。ほぼ愚痴。

体育会執行委員をやっている身として思うのは、なんかただただめんどくさいことを執委がワンゲルに課している、みたいな雰囲気を出されると、ちょっと…て思います。仕方ないことかもしれないけども。

別にそのめんどくさいことをやりたくないって言うのであれば体育会から出ていけばいいだけで、出る気がないのなら一回ずつ嫌味(ここでの嫌味というのは「ただただめんどくさい」的な発言。改善案とかを言ってくれるのは歓迎)を言わないでほしいです。ちなみにワンゲルが体育会にいて得していることは部室の場所を確保していることと、多少の援助金、あと印刷機とかを借りることができるとか、トレの施設利用とかです。

一回体育会から出ていくことも考えてみたらどうでしょう。本当に体育会に僕たちはいないといけないのか考えてみてはどうでしょう。現在体育会に所属していることによって得られているメリットとデメリットを比較して、メリットが少ないと思うのであれば、またはデメリットが大きいと思うのであれば、体育会執行委員に対して高々と宣言すればよいのです。「ぼくたちは体育会から抜けます！」と。

考えてみて、もしやっぱり体育会にいたい、体育会は必要、って思ってくれるのであれば、僕個人としてはすごくうれしいな、って思います。

良かった点

- ・ なんだかんだ 1 年生が入ってくれた。
- ・ なんだかんだ提案も沢山あって山行が充実していた。
- ・ なんだかんだドライバー数が増え且ついまのところ無事故である。
- ・ 昨年より各自トレーニングに励んでいると個人的に感じる。
- ・ テントが充実した☆←もう少しはやければ・・・

改善点

- ・ ミーティング、医療講習会等の欠席率が高かった。
- ・ 上級生が抜け、ミーティングがぐだることが多かった。

昨年度の総括での改善点と不安要素を大雑把にみると以下のようなになる。

- ・ 現三年生の少なさに対する対応
- ・ ミーティングの雰囲気が比較的しまりのない物に（遅刻欠席の連絡徹底）
- ・ トレーニングの実態が不鮮明
- ・ 勉強会の内容を定着させられていない（特に気象、天気図）。

これらと今年度を比較していきたいと思う。去年のミーティング総括を一年生には是非読んでほしい。先輩の意見は本当に貴重なものが多いので。

1. 良かった点、改善された点。

1-1 秋以降も山行の提案が続いたこと

今年は去年に比べ「低山」や「日帰り」の山行が増えた。これが必ずしも良いというわけではないが、通年を通して山にいける（オフシーズンがない）ようにメンバーが取り組んだのは大きな進歩だと思う。

1-2 ドライバーの増加

ドライバーが大きく減少することは去年の総括でも出た不安要素だが、これは 2 年生の多くが免許を取得することで守られたので良かった。

1-3 まとめテスト（実技）の実施

昨年の反省が見事に生かされた。形式にも工夫が凝らされ皆一通りロープワークとザック搬送を定着させられたのではないだろうか。

1-4 福住君の質の高い勉強会資料

彼のパワーポイントの活用（気圧の流れがアニメーションで説明してくれたのには感動！）や、ヴィジュアル性が高く見やすい資料は大変素晴らしかった。とりあえず自分もテキストボックス多用してみます。

2. 悪かった点、改善されなかった点。

2-1 ミーティングに対する意識の低下

これは昨年度より更にひどくなってしまったように感じられる。昨年は「絶対理由もなく遅刻してはならない」という意識はメンバー間で共有され、意識の高いミーティングであった（それでも現4年生は「遅刻をしょうがないと見るようになった」など意識の低下を述べられている。）と思う。しかし今年は理由を申し出ないまま休んだり、遅刻したりする部員が目立った。

この点に関しては、昨年の総括にある現4年生の原田先輩の意見がそのまま私の意見となる。先輩の意見を要約すれば、登山は精神面が大きなファクタとなるスポーツであり、日ごろの生活態度が大きく反映される。その登山に行く上で不可欠なミーティングの参加者たちは、友達以前に危険なリスクを孕む山と一緒にいくメンバーなのだ。私はメンバー間の登山に対する「真剣さ」をミーティングで確認したいし、そういう人たちとメンバーを組みたい。

私の議長としての力量不足もある（徹底した態度を取れなかった。）が、今年度ミーティングの意義を再確認してほしい。

2-2 トレーニング

トレノートはあまり効果がなかったようである。やっても書かないという話をよく聞くので、この点に関しては個々人に任せるしかないのだろうか…しかしたまにはみんなとトレーニングしたい。私自身1年生の時は先輩方とのトレーニングを通して色んな交流や意識の共有ができたからだ。

2-3 気象、読図（勉強会）能力の定着化

今年は定着面でいえば昨年とあまり変わらなかった印象がある。これは実技も交えて2週間やってもいいのではないか。1週目に今までどおり講義形式で勉

強会を行い、2週目にそれを踏まえた実技形式の勉強会といった感じである（時間がなければ1週でもよい？）。気象であれば各自天気図を取ってきてもらって考察する（分担して長いスパンで見た方が何か特徴なども見出しやすいか？）。読図であれば部室のワークブックを活用するなどが挙げられる。

最後に

登山をする楽しさはいくらでもあるけど、ただひとつ生命のリスクがあることを忘れないようにしたい。私の反省は全てそれが本質となって派生したものに過ぎない。

ワングルの活動はほとんど時間が決まっている。それらを先ずは自ら選択した事として真剣に取り組んでいきたい。主将がいつか言っていた「それなのに、そんなにも守れないなんてどうしようもないやん。」は今も心に残っている。

吉田

箇条短文書きする。

良かった点

- ビバーク、実技のテスト、勉強会の復習など新しい試み。
- 昨年度の反省を活かし、全体山行の提案、審査で計画を事前にチェック
- 経験豊富の3年生が少ないなかで、質的に課題の残る山行もあったが、量的には満足いくものではないか

反省点

- 休む、遅刻が多い
- 休んだMTGの資料を確保しているのか
- ブログ更新が止まりがち
- HP利用の勉強会はプロジェクターを活用しなかった
- 文芸局。読みやすいよう、資源節約、頼みます。
- 一年生にはもっと積極的に山に行って欲しかった。
-

意見

- 渉外局様。いつも幹事ありがとうございます。美味しい料理屋さんもありますが、OFF会は居酒屋が盛り上がっていいんじゃないかと、個人的に思います。
- 春休みに1学期、夏休みの山行の予定を2,3年が集まって行った(私は参加しなかった

が)。これは昨年度の総括で先輩方に勧められたものだが、今後も続けていくと良いと思う。2,3 学期にも。

- ワンゲルに割ける時間というのが、段々と限られたものとなってきた。その中で、一回一回の MTG, リーダー会の機会をより大切に考えていく必要を感じている。

最後に

- 煩くなることもあり、質の高い MTG というのは影を潜めている。自覚の問題だろうか。
- 来年度以降も、必要と考える勉強会や新しい勉強会方法、などの議論が活発に行われること、そしてその提案が常にチェックされ、質の向上への取り組みが継続していくことを望む。
- この総括の提出が遅れ、迷惑をおかけしました。

若林

・良かった点

- ・ ミーティングをより良くしようという考えでさまざまな改善が試みられたこと
- ・ 勉強会の内容がよく練られていたこと(実践など)
- ・ 山行の数が多く、2 月にも山がでた

・改善点

今年のワンゲルの活動は例年とは異なり、2 年生が主体となって動いていた感じがする。そのためミーティングの運営がどこか少し戸惑いながらのものになっていた気がする（3 年生がもともと少なく、2 年間ミーティングを経験してきた人が佐藤夏美さんしかいないため？）結果として余計なところで時間を使い、だらだらと時間が流れ、大事な議題などが先送りになるなどしていた。来年は今年の経験を生かしてキッチリとメリハリをつけて運営を行いたいところだ。

勉強会に関しては、良く調べて資料を作ったんだと思うものがいくつもあった。ただ残念なのはその資料を読むのに終始しているだけや、去年の資料と同じことを繰り返している勉強会が多かった点だ。できれば追加説明などが欲しいし、過年度の資料に新しいことを付け加えるぐらいのことをしてほしい。特に技術や常識などは変わり得るものなので以前は正しくても、今ではもう正しくない、なんてこともよくある話だ。

もう一点気になる部分として、やはり欠席・遅刻が非常に多い気がする。ミ

ーティングはこのワンゲルで数少ない原則参加義務の会合なので、個々人いろいろと理由があるのだろうが、このサークルにいる以上、ある程度ほかの活動を控えてでも参加していただきたい。また、参加できない、もしくは遅れる場合には主将に連絡するということが決まりになっているので、この点は必ず守ってほしい。また人が前で話している時に隣と長々とおしゃべりする人もいたが、時と場所を考えて頂きたい。これは社会人としてのモラルの問題なので。同じ山に行くのであれば、日頃から信頼できる人と行きたいと思うのは当然だろう。

1年生の山行への参加が少ない、という意見もよく耳にするが、自分としてはあまり気にしなくてもよいと思う。自分の行きたい山へ行く、というのがこのサークルの方針だし、大学入って授業とかいろいろ忙しかったと思う。何より金銭面とかの問題もあると思う。2年になれば少しは余裕が出ると思うので、自分の行きたい山を計画してくれるのではないだろうか。もちろん経験などの理由で制限はかかるかもしれないが…。

1年生に関してもう一つ。皆さん天気図はとっていますか？一応来年度は君たちも指導する側になるので、それなりのモノができないと非常にマズイ。最低でも矛盾のない天気図がとれるように。できれば速く描けるように。目標としてはラジオ放送終了後 20 分程度で。頑張りましょう。

・個人的反省

今年度は少し自分に甘かったなという思いがある。運営委員の仕事に関しても勉強会の資料作りにしても、どこか手を抜いていた感があるのだ。そんないい加減さが日常生活にも出るなど（逆か？）、いろいろと周りに迷惑をかけることもしばしばあった。来年度は手を抜かず、キッチリとすることを心がけたい。

市川

○個人的な反省

・自己管理がちゃんとできてなくて迷惑をかけてしまった。（スケジュールが過密だったため、自分の体のコンディションを整える時間がなく、山行に参加してしまった。）

○全体的な反省

・医療講習会の出席率の悪さ。まず、医療講習会は夏山行く人は必ずの参加。今年度は、15人程度とお願いしたにも関わらず当日5人しか参加できなかった。前日に参加できないという連絡が結構多く来たが、わかった時に連絡するべき。消防署の方々も人数分の道具などを準備して下さったろうし、迷惑をかけているということを考えてほしい。また医療講習会に参加するということの意味を考え直してほしい。医療講習会は少しでも楽しく安全な山行にするために行うためのものであり、万が一に備えて行うもの。もう少しそのことを考えてほしい。(医療として思ったこと。)

対策

→早めに連絡すること。(日程変更は無理だろうが、消防署の方に人数変更の連絡はできる。)

・MTのぐだぐだ感が…もう少しどうにかできないものかと思ってしまった。
→来年度は飯田案になるのかな？

・今年は2年生が主体になってワンゲルが動いていてきっと手探りのようだったと思うがみんな頑張ってるなと思った。(偉そうにすみません。しかもあまり協力できていないことばかりで。)つまりはおつかれさまということで。